

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370060

研究課題名(和文) インド伝統医学書『チャラカ・サンヒター』とその註釈書に関する文献学的研究

研究課題名(英文) A Philological Study on the Carakasamhita and Its Commentaries

研究代表者

山下 勤 (Yamashita, Tsutomu)

京都学園大学・経済経営学部・教授

研究者番号：00319435

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：インド伝統医学書『チャラカ・サンヒター』(紀元後6世紀頃)への註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤ』(7世紀頃)第6編第2章第1節の校訂と英語への翻訳を完成した。また同書と同時代の他分野のサンスクリット文献とを比較し、インド医学関連の文化的状況を考察した。さらに『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤ』以外の3種の註釈文献、チャクラパーニダッタ作『アーユルヴェーダディーピカー』(11世紀)、ガンガーダラ作『ジャルパカルパタル』(19世紀)、ヨーギーンドラナータセーナ作『チャラカ・ウパスカーラ』(20世紀)の当該部分の解説・英語翻訳・比較研究を行い、インド医学理論の発展経過の一端を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：We completed our critical edited text and English translation of the Nrantarapadavyakhya 6.2.1, which is the extant oldest commentary on the Carakasamhita (around 6th century A.D.), an Indian traditional medical treatise written in Sanskrit. Based on our critical edited text and English translation of the Nirantarapadavyakhya, we considered the cultural situations around Indian traditional medicine comparing the Carakasamhita, Nirantarapadavyakhya and other Sanskrit texts of the same period in India. Furthermore, we analyzed and translated the other three commentaries on the Carakasamhita, namely, Cakrapanidatta's Ayurvedadipika (11th century A.D.), Gangadhara's Jalpakalpataru (the middle of 19th century A.D.), and Yogindranathasena's Carakopaskara (the beginning of 20th century A.D.). We could shed light on a part of the developmental process of the theories of Indian traditional medicine based on the results of our analysis on the Sanskrit medical commentaries.

研究分野：インド学

キーワード：インド伝統医学 サンスクリット 医学史

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者(山下)は、1990年代後半からインド伝統医学文献の文献学的研究に着手し、『ペーラ・サンヒター』、『チャラカ・サンヒター』、『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』といった主要なインド医学文献とそれらの註釈文献の読解・翻訳をすすめ、主にインド伝統医学に特有の医学理論の解明を進めてきた。2007年からはコペンハーゲン大学の Kenneth G. Zysk 教授とウィーン大学の Karin Preisendanz 教授の協力・指導のもと、インド伝統医学文献とその註釈文献の写本を用いた原典批判研究を行っている。さらにこれら文献学的研究と並行して、インド各地の伝統医師の治療実践と出版本・写本など伝統医学文献資料に関する現地調査を行い、当該分野の研究資料整備を目的としてこれらの成果を継続的に出版してきている。以上のようなこれまでのインド伝統医学に関する研究経験に基づいて、今回新たに古代インドにおける人間の「病気」と「治療」の実態の多角的な解明を主目的とする文献学的研究を着想するに至った。

## 2. 研究の目的

インド伝統医学の主要文献の1つ『チャラカ・サンヒター』の第6篇(治療篇)を、同書への数多くの註釈文献や他のインド伝統医学書などの関連文献を参照しつつ多角的に読解・翻訳し、古代インドにおける人間の「病気」と「治療」の実態を、当時のインド医学理論を踏まえ、医療倫理観など社会的思想背景も含めて、総合的に解明することを主な目的とする。特に『チャラカ・サンヒター』関連文献のうち、現存する最古の註釈書であるジャッジャタ作『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤ』については、写本資料を用いた原典批判と英訳を行い、その一部分を出版することを目的として準備を進める。また、インド伝統医学書の出版本と写本および伝統医師による治療実態に関するインド現地調査・資料収集を行い、文献読解のための基本資料として整備する。

## 3. 研究の方法

主に以下の【1】、【2】、【3】項目の資料収集・調査・研究を行う。研究年度ごとに項目を変えるのではなく、各年度とも以下の項目をそれぞれ漸次行うこととする。

【1】インド伝統医学文献資料の収集と分析  
国内外の図書館等に所蔵されているインド医学書は数少ないため、特に古い出版本に関しては新たに入手、またはコピー作成の必要がある。『チャラカ・サンヒター』本文はこれまでに30種以上が出版されており、同書の現存註釈文献は少なくとも10種近くが知られている。研究代表者(山下)は既にこのうちの出版本と写本コピーを数種入手しているが、さらに同書以外の医学書も含めて、未入手資料の調査とそのコピー等の収集を進める。医学写本に関してはインド現地調査を予定している。

## 【2】インド伝統医学文献の読解と翻訳

『チャラカ・サンヒター』は全8篇からなる浩瀚なインド伝統医学全書である。このうち第6篇全30章は「治療篇」と名付けられている。この篇では、当時は治療が困難とされていた内科的疾患および精神疾患を中心とする20数種の疾患がインド伝統医学に特有の疾病分類基準に従って分類され、それぞれの原因・診断・治療・予防について詳細に解説されている。本研究では、まずこの『チャラカ・サンヒター』第6篇(治療篇)全体の構成・内容を精査し、他の関連文献との照合・比較を行う。これによって当時のインド伝統医学の疾病観、疾病分類、診断法、疾病治療といったインド病理論の基本的な内容が明らかとなることが期待される。また、この篇では個々の疾病の治療に関して、様々な治療手技と薬草を用いた薬剤についての記述が多く見られる。このような治療実態に関する記述の正確な読解のために、本研究では、新たに現代インド伝統医学の治療実態に関する現地調査を行なう。同篇第2・3章(強壯法・熱性疾患の章)については、註釈書をはじめとする様々な関連文献とともにさらに詳細に読解し、英語への翻訳を進める。なお、同篇第1・2章と第3章との間には内容に大きな隔りがあり、第1・2章は後代に新たに附加された部分ではないかとの見方がある。この点についても検討し、『チャラカ・サンヒター』の文献成立過程について考察する。

『チャラカ・サンヒター』の内容を、当時の社会的思想背景まで含め詳細に読解するためには、同書への註釈文献だけでなく、諸種の関連文献をも参照する必要がある。このような関連文献としては、同書と同じ学派の医学書『ペーラ・サンヒター』、異なった学派の医学書『スシュルタ・サンヒター』、同書からの引用が多く見られる後代の医学書『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』、『アシュターンガ・サングラハ』など、さらに『マヌ・スメリティ』などの法典類、叙事詩『マハーバーラタ』、インド医学理論の形成に大きな影響を与えたインド哲学のヴァイシェーシカ学派やサーンキヤ学派の文献などがあげられる。本研究ではこのような『チャラカ・サンヒター』第6篇(治療篇)の関連文献を出来る限り数多く参照し、インド伝統医学をインド文化の重要な構成要素の1つとして捉える視点を提示したい。また特に『チャラカ・サンヒター』の10種近くの現存註釈文献のうち、最古の註釈書ジャッジャタによる『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤ』については、研究協力者であるコペンハーゲン大学 Kenneth G. Zysk 教授と共同で写本を用いた原典批判と英語への翻訳を行ない、本研究対象部分の成果は、学術論文の形で出版を準備することとする。

【3】インド伝統医学臨床実態の現地調査  
インド伝統医学書に見られる医学理論と

疾病治療に関する内容を正確に理解するためには、現在も行われているインド伝統医学の治療実態について知ることが必要である。そのため、本研究では、研究協力者であるインド伝統医学医師 Madhu K. Parameswaran 氏の協力を得て、インド・ケーララ州の伝統医学診療所などにおいて、現在も行われているインド伝統医学の臨床治療実態に関する調査を行う。特に本研究で研究対象とする疾患の治療については、症例記録の提供を受けてその分析を行う。

#### 4. 研究成果

**平成26年度**は4年間の研究の初年度であるため、主に今後の研究のための基本的な調査と準備的な作業を行った。その概要は以下の通りである。

【1】インド伝統医学文献資料の収集と分析  
資料収集：インド伝統医学文献『チャラカ・サンヒター』の現存する10種近くの註釈文献のうち、最古のものと考えられる註釈書、ジャッジャタ作『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』を主な研究対象とすることとし、その文献学的研究のための資料を収集、確認した（手書き写本3種のコピーと写真、出版本1種）。このうち、インド、タミルナードゥ州チェンナイの Government Oriental Manuscripts Library に所蔵されているマラーラム文字による手書き写本については、平成26年9月の現地調査によって現物を確認し、当該図書館の許可を得て、全ページの鮮明なカラー写真を撮影した。このほかインド国内各所（Tanjore, Tanjore Mahaaraja Serfoji's Sarasvati Mahaal Library; Mysore, Oriental Research Institute Library など）で資料調査とコピー等の収集を行った。

資料分析：上記註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の写本のコピーおよび写真を改めて分析した結果、『チャラカ・サンヒター』第6編に関しては註釈がほぼ完全に残存しているのは第2章第1節以降であることが明らかとなった。

#### 【2】インド伝統医学文献の読解と翻訳

上記資料分析に基づいて『チャラカ・サンヒター』第6編第1～3章について、『チャラカ・サンヒター』の本文と、その註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』を対照しながら読解し、内容を詳細に分析した。また当該部分の註釈文中に引用されているヴェーダ文献や叙事詩など医学文献以外の文献について調査を行った。

さらに上記資料分析に基づいて註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の『チャラカ・サンヒター』第6編第2章への註釈テキストの校訂と英語への翻訳を進めた。

#### 【3】インド伝統医学臨床実態の現地調査

上記文献学的研究を補完するための参考資料を得ることを目的として、インド、ケーララ州において現代のインド伝統医学の臨床治療の実態に関する聞き取り調査など、資料収集を行った。

**平成27年度**は4年間の研究期間の2年目であり、主に資料収集などの基本的な調査と収集資料の分析・解読などを行った。概要は以下の通りである。

【1】インド伝統医学文献資料の収集と分析  
資料収集：平成26年度に引き続き、インド伝統医学文献『チャラカ・サンヒター』の現存する10種近くの註釈文献のうち、最古のものと考えられる註釈書、ジャッジャタ作『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の文献学的研究のための資料を収集・確認した。また、『チャラカ・サンヒター』からの引用が多く認められるインド伝統医学書『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』と『アシュターンガ・サングラハ』の写本資料の確認とそのコピーの収集をインド国内（Hyderabad, Andra Pradesh Oriental Manuscript Library; Chandigarh, DAV College, Lalchand Research Library; New Delhi, Indira Gandhi National Centre for the Arts）にて行い、多くの資料を得た。

#### 【2】インド伝統医学文献の読解と翻訳

『チャラカ・サンヒター』第6編第2章について、『チャラカ・サンヒター』本文と、その註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』を対照しながら読解し、内容を詳細に分析した。また当該部分の註釈文中に引用されているヴェーダ文献や叙事詩など医学文献以外の文献について調査を行った。

また註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の『チャラカ・サンヒター』第6編第2章第1節への註釈テキストの校訂と英語への翻訳を進めた。

これらの研究と並行して、註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』以外の3種の註釈文献の当該部分を解読し、各註釈文献の比較研究を行った。この3種の註釈文献は次の通りである。1. チャクラパーニダッタ作『アーユルヴェーダディーピカー』（11世紀頃）、2. ガンガーダラ作『ジャルパカルパタル』（19世紀中頃）、3. ヨーギーンドラナータセーナ作『チャラカ・ウパスカーラ』（20世紀初頭）。

#### 【3】インド伝統医学臨床実態の現地調査

上記文献学的研究を補完するための参考資料を得ることを目的として、インド、ケーララ州において現代のインド伝統医学の臨床治療の実態に関する聞き取り調査など、資料収集を行った。その一部を論文として発表した。

**平成28年度**は4年間の研究期間の3年目であった。前年度までと同様、写本などの文献資料収集といった基本的な調査と、これまでに収集した資料の分析・解読などを主に行った。概要は以下の通りである。

【1】インド伝統医学文献資料の収集と分析  
資料収集：平成27年度に引き続き、インド伝統医学文献『チャラカ・サンヒター』の現存する10種近くの註釈文献のうち、最古のものと考えられる註釈書、ジャッジャタ作

『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の文献学的研究のための資料を収集し、内容を確認した。また、『チャラカ・サンヒター』からの引用が多く認められるインド伝統医学書『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』と『アシュターンガ・サングラハ』の写本資料の調査とそのコピーの収集をインド国内 (Pondicherry, French Institute of Podicherry; Tripnithura, Sanskrit College Library; Nagpur, Nagpur University Library) にて行い、多くの資料を得た。

## 【2】インド伝統医学文献の読解と翻訳

上記資料収集で得られた註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』第6編第2章について、『チャラカ・サンヒター』本文と、註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』を対照しながら読解し、内容を詳細に分析した。また当該部分の註釈文中に引用されているヴェーダ文献や叙事詩など医学文献以外の文献について調査を行った。

また註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の『チャラカ・サンヒター』第6編第2章第1節への註釈テキストの校訂と英語への翻訳を進め、ほぼ完成に至った。

さらに註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』以外の3種の註釈文献 (1. チャクラパーニダッタ作『アーユルヴェーダディーピカー』、2. ガンガーダラ作『ジャルパカルパタル』、3. ヨーギーンドラナータセーナ作『チャラカ・ウパスカーラ』) の当該部分を解説し、各註釈文献の比較研究を行った。

## 【3】インド伝統医学臨床実態の現地調査

上記文献学的研究を補完するための参考資料を得ることを目的として、インド、ケララ州において、現代のインド伝統医学の臨床治療の実態に関する聞き取り調査など、資料収集を行った。

平成29年度は本研究の最終年度であり、以下の研究を進めた。

## 【1】インド伝統医学文献資料の収集と分析

資料収集：インド伝統医学文献『チャラカ・サンヒター』の現存する10種近くの註釈文献のうち、最古のものと考えられる註釈書、ジャッジャタ作『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の文献学的研究のための資料を収集、確認した。

また、『チャラカ・サンヒター』からの引用が多く認められるインド伝統医学書『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』と『アシュターンガ・サングラハ』の写本資料および印刷出版の確認とそのコピーの収集をイギリスおよびオランダにて行った。このうち、イギリス・ロンドンでは British Library, Wellcome Collection, Royal Asiatic Society の3箇所所蔵されている数多くの『アシュターンガ・フリダヤ・サンヒター』および『アシュターンガ・サングラハ』の写本と出版本の現物を確認し、当該図書館の許可を得て、必要な部分の鮮明なカラー写真を撮影した。また一部写本の撮影および撮影データの郵

送を当該図書館に依頼し、後に入手することができた。

## 【2】インド伝統医学文献の読解と翻訳

平成28年度までにはほぼ完成した註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』の『チャラカ・サンヒター』第6編第2章第1節への註釈テキストの校訂と英語への翻訳を改めて確認し修正を行った。また『チャラカ・サンヒター』第6編第2章第1節のテキストの各種出版本を用いた校合 (collation) を行い、仮の校合テキストとその英語への翻訳を完成した。

さらに註釈書『ニランタラパダ・ヴィヤーキヤー』以外の3種の註釈文献 (1. チャクラパーニダッタ作『アーユルヴェーダディーピカー』、2. ガンガーダラ作『ジャルパカルパタル』、3. ヨーギーンドラナータセーナ作『チャラカ・ウパスカーラ』) の当該部分の読解と英語への翻訳をほぼ終了し、各註釈文献の比較研究を行った。

以上のようなこれまでの研究結果を総合し、考察を加えた論文の作成を進め、ほぼ完成に至った。この論文は平成30年7月ごろにオランダの学術誌 *eJournal of Indian Medicine* への投稿を予定している。

## 【3】インド伝統医学臨床実態の現地調査

平成29年度はインドでの現地調査は行わなかった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① Tsutomu Yamashita and P. Ram Manohar, "Memoirs of Vaidyas. Special Edition." *eJournal of Indian Medicine* Vol. 9, No. 3, 2017, pp. 63-80.

<https://ugp.rug.nl/eJIM/issue/view/4286>

② Tsutomu Yamashita and Madhu K.

Paramesvaran,

"Theory and Practice of Traditional Medicine in India (1) - A Case of Contact with Spider Venom -"

*eJournal of Indian Medicine* Vol. 8, No. 3, 2015, pp. 61-79.

<https://ugp.rug.nl/eJIM/issue/view/3283>

③ Tsutomu Yamashita, P. Ram Manohar, Madhu K. Parameswaran,

"Memoirs of Vaidyas. The Lives and Practices of Traditional Medical Doctors in Kerala, India (8)" *eJournal of Indian Medicine* Vol. 8 No. 2, 2015, pp. 33-60.

<https://ugp.rug.nl/eJIM/issue/view/3284>

[学会発表] (計1件)

① Tsutomu Yamashita,

*Theory and Practice of Ayurveda (1).*

International Seminar on the Classical Texts of Ayurveda II. (2016年2月24日デンマーク・コペンハーゲン大学)

〔図書〕（計1件）

① Paul Keyser and John Scarborough (eds.),  
*Oxford Handbook of Science and Medicine in  
the Classical World*. Cary and New York:  
Oxford University Press, 2018.

Tsutomu Yamashita, “India and Sanskrit,  
Sanskrit Medical Literature.” pp.95-104.

<https://global.oup.com/academic/product/oxford-handbook-of-science-and-medicine-in-the-classical-world-9780199734146?lang=en&cc=us>  
#

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

山下勤 (Tsutomu YAMASHITA)

研究者番号：00319435

京都学園大学 経済経営学部 教授

(2) 研究分担者 0名

(3) 連携研究者 0名

(4) 研究協力者 2名

①ケネス G.ジスク

(Kenneth G. ZYSK)

デンマーク・コペンハーゲン大学教授

②マドゥ K.パラメーシュワラン

(Madhu K. PARAMESWARAN)

インド・VPSV Ayurveda College 准教授